

第2章 立会調査の概要

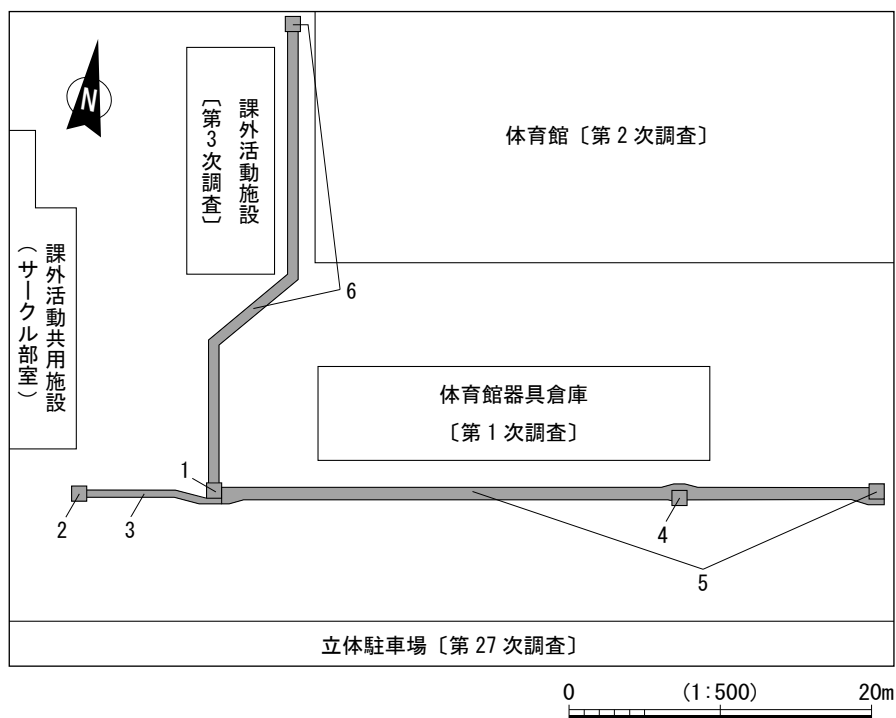
第1節 調査の実施状況

2013年度の立会調査は、蔵本地区（庄・蔵本遺跡）5件、南常三島地区（常三島遺跡）5件、計10件を実施した。調査地点と概要は第19・20図、第2表に示したとおりである。特筆される調査について次節以下で報告する。

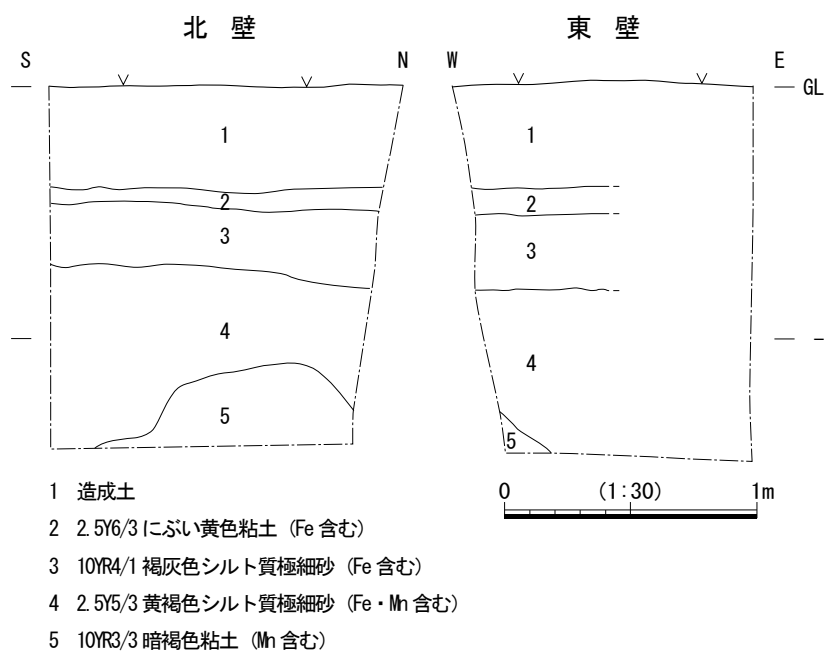
第2節 蔵本地区立体駐車場新営その他電気設備工事（1地点）

1. 調査地点の位置

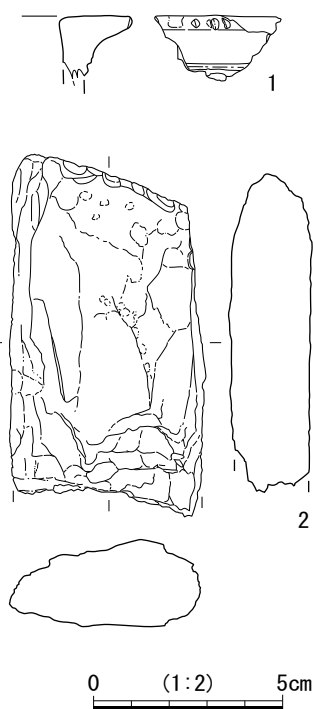
調査地点は蔵本キャンパス南西の立体駐車場北側に位置する（第19図）。立体駐車場新営その他電気設備工事に際し、立会調査を実施した。周辺では、第1次調査（体育館器具庫地点）、第2次調査（体育館地点）、第3次調査（課外活動施設地点）、第27次調査（立体駐車場地点）が実施されている。これらの調査地点では、弥生時代～近代の遺構・遺物が検出されている。そのなかでも第27次調査では、弥生時代前期の畝状遺構や旧河道、弥生時代終末期の銅鐸片などをはじめ、多くの遺構・遺物が検出されている。



第12図 1地点内の調査位置詳細



第13図 1－2 地点北壁・東壁土層断面図



第15図 1－2 地点出土遺物



第14図 1－2 地点北壁写真

2. 調査成果

1－2 地点（第12図）では、ハンドホール埋設に伴う立会調査において、包含層が確認された。層序（第13・14図）掘削範囲は南北1.0m×東西1.0mと狭く、出土遺物も限られている。ただし、南に隣接する第27次調査（立体駐車場地点）の成果を通じ、各層の時期などを比定することが可能であった。

1層 造成土である。

2層 にぶい黄色（Hue2.5Y6/3）の粘土で、鉄分を含む。上面はGL-0.4mである。近世から近代の水田層と考えられる。

3層 褐灰色（Hue10YR4/1）のシルト質極細砂で、鉄分を含む。上面はGL-0.5mである。弥生時代前期末～中世の土壌化層と考えられる。

4層 黄褐色（Hue2.5Y5/3）のシルト質極細砂で鉄分、マンガンを含む。上面はGL-0.7～0.8m

である。弥生時代前期末・中期初頭の洪水砂起源層と考えられる。

5層 暗褐色（Hue10YR3/3）の粘土でマンガンを含む。上面はGL-1.1～1.4 mで起伏がある。縄文時代晩期末～弥生時代前期末の土壌化層と考えられる。第27次調査では、同層上面から弥生時代前期中葉の畝状遺構が検出されている。

出土遺物（第15図） 3・4層から弥生時代の土器と石器が出土した。1は逆L字形口縁をもつ甕形土器である。口唇部刻目と口縁部下に1条以上の篋描沈線文が施される。器面調整は内外面ともナデである。粘土帯の接合痕がみられ、幅広粘土帯一外傾接合とみられる（三阪2014）。色調は外面がにぶい橙（Hue7.5YR5/3）、内面は橙（Hue5YR6/6）である。弥生時代前期末～中期初頭に位置づけられる^{註1)}。

2は打製石斧である。基部のみ残存し、刃部は欠損している。残存部は長さ9.6cm、幅5.1cm、厚さ2.3cm、重量162.7gである。側縁に比べ基端は剥離が明瞭に残る。一部に敲打痕がみられる。石材は珪質片岩とみられる^{註2)}。時期は弥生時代前期～中期と考えられる。

第3節 蔵本地区立体駐車場新営その他工事（5地点）

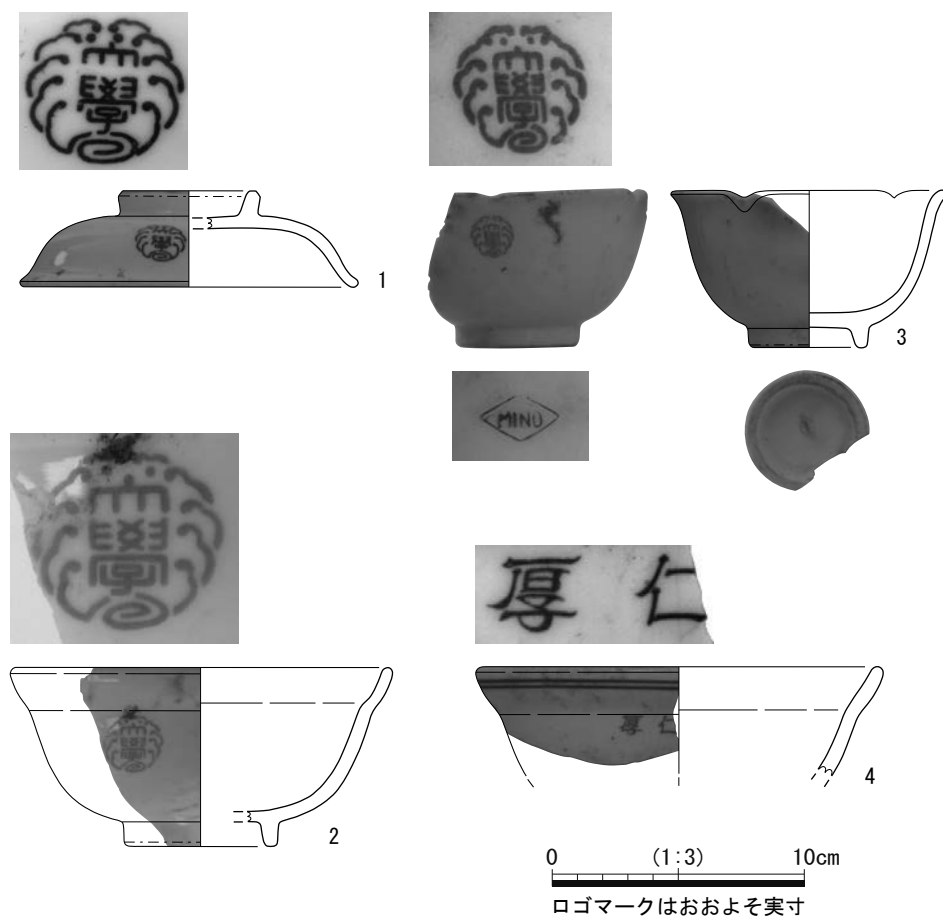
1. 調査地点の位置

調査地点は蔵本キャンパス南西の立体駐車場南側のグラウンド内に位置する（第19図）。グラウンドの電柱および防球ネットの設置に際し、立会調査を実施した。周辺では、北側で第27次調査（立体駐車場地点）、東側で第6次調査（青藍会館地点）、第16次調査（ゲノム機能研究センター地点）、第18次調査（ゲノム機能研究センター増設地点）が実施され、弥生時代～近代の遺構・遺物が検出されている。

2. 調査成果

グラウンド周囲への電柱および防球ネット設置に伴うコンクリート柱埋設のため、掘削スクリーによって、平面が径0.3～0.9 mの円形、深度GL-2.6～12.0 mの範囲が掘削された。掘削平面が小さく、層序は明確に確認できなかった。また、一部のコンクリート柱の周辺には、コンクリート基礎を埋設するため、平面が一辺2.2～2.9 mの方形、深度GL-0.5～0.7 mの範囲が掘削された。掘削範囲は造成土内である。このような調査のなかで、廃土内および造成土内から本学に関連する近現代の遺物を採集できたため、その内容について報告する。

出土遺物（第16図） 1～4は、硬質陶器と考えられる（田尻2013）^{註3)}。1は蓋であり、口縁部は外反して開く。2は碗で、口縁部は内湾して立ち上がる。3は碗で口縁部は輪花を呈する。高台内に緑色で「MINO」と記され、その周囲が緑色の菱形で囲まれる。これは美濃窯業株式会社の社章であり、同社の製品であることがわかる（美濃窯業株式会社編2002）。1と2は胎土、口径、形態、3との「大學」ロゴマークの共通性に加え、美濃窯業株式会社の社史に掲載された写真（美濃窯業株式会社編2002、口絵）からみて、同社製品であり、セットとなる器種であろう。4は碗で2と類似する器形を呈するが、口縁部の内湾は2より若干弱い。口縁部外面に緑色の二重圈線を有し、口縁部下に「厚仁口」と記される。同地点から「口仁会」と記されたものも出土しており、「厚仁会」と記されたものである。



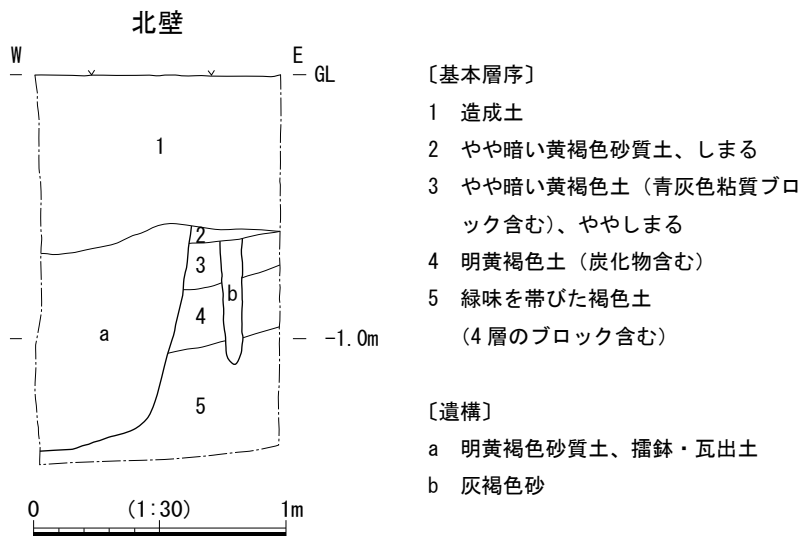
第16図 5地点出土遺物（1～3：5－5地点、4：5－13地点）

と考えられる。美濃窯業株式会社社史によると、緑色の二重圏線は「グリーン2線」と呼ばれるもので、戦中から戦後しばらく生産が行われ、給食用食器として病院や工場などに出荷されたとされる（美濃窯業株式会社編 2002、口絵・41頁）。

美濃窯業株式会社は、1918年の創業で耐火煉瓦等の生産にはじまり、1919年から陶磁器の生産を開始している。戦時中の物資不足や軍事産業増強などの国策により、陶磁器生産は1943年に中止された。再び、終戦直後の1945年に陶磁器生産が開始され、主に病院や工場に給食用食器を出荷していたようである。同社は戦前までに、仲買人などを介さず、生産者が自ら受注、生産、販売を行う直販方式を確立し、大量生産に成功していたことが指摘されている（美濃窯業株式会社編 2002、田尻 2013）。

1～3は渦潮をモチーフとする文様が「大學」の周囲に配されたロゴマークを有する。徳島大学のロゴマークである可能性が高いが、学章として登録されていたかはわかっていない。施文方法は不明であるが、紺色のもの（1）と、水色のもの（2・3）に分けられる。前者は後者に比べ、「大」と「學」の間隔が広いといった差異がある。また、2と3の色調は類似するがサイズは異なり、細部の形態にも若干の違いがみられる。

徳島大学の蔵本キャンパスは、1947年に官制徳島医学専門学校および同附属病院が蔵本町の旧陸



第17図 9-2地点北壁土層断面図



第18図 9-2地点北壁写真

軍歩兵第43連隊跡地に移転し、翌1948年には徳島医科大学および同附属病院が設置され、そして、1949年に国立大学徳島大学および同附属病院が設置されたことによって始まった。また、一般財団法人厚仁会は、徳島医科大学と同附属病院の蔵本町設置に伴い、1949年に財団法人徳島医科大学厚仁会として設立された。設立目的は、「徳島医科大学の職員、学生親和の下に学事を奨励し、福利厚生を図り並びに附属病院の事業奨励を行うこと」とされる。同年、売店部、食堂部、用達部（理容）が開設され、以降事業を継続・展開させ、1959年に財団法人厚仁会に改称される。以上の状況から、1～4は1949年以降に徳島大学、同附属病院、厚仁会の関連施設で使用されたものと考えられる。

このほかに、口縁部に「グリーン2線」をもち、「徳島県立中央病院」のロゴマークが記された碗を採集した。これらも、美濃窯業株式会社製と考えられる。なお、同病院は1945年に陸軍病院から国立徳島病院となり、1953年に徳島県に移管され徳島県立中央病院となるため、これ以降に使用されたものである。

徳島大学は2009年に創立60周年を迎え、2014年は65年目となる。蔵本キャンパスの過去における利用のあり方や大学ロゴマークなど、考古資料を通じ、文献史料に残されない大学史の一面を紐解く可能性を示せたのではないだろうか。また、九州大学出土の陶磁器の分析を行った田尻義了は、戦前の有田と美濃における陶磁器生産体制の違いを明らかにしている（田尻2013・2014）。徳島大学出土資料についても、そうした研究テーマの解明を進めるうえで、重要な資料となろう。

第4節 南常三島地区課外活動施設新営工事（9地点）

1. 調査地点の位置

調査地点は常三島キャンパス南西のテニスコート周辺に位置する（第20図）。課外活動施設新営工事に伴う外灯設置に際し、立会調査を実施した。周辺の発掘調査は行われていない。『御山下島分絵図』（安政年間〔1854～1869年〕、個人所蔵）によると、本調査地点は十二代山崎善五郎の屋敷地内に位

置する。

2. 調査成果

9－2 地点（第 20 図）の立会調査において、包含層および遺構が確認されたため報告する。

層序（第 17・18 図） 以下の 5 層を確認した。

1 層 近代以降の造成土である。

2 層 やや暗い黄褐色砂質土である。しまる。上面は GL-0.6 m である。

3 層 やや暗い黄褐色土で、青灰色の粘質ブロックを含む。ややしまる。上面は GL-0.6 ～ 0.7 m である。

4 層 明黄褐色土で、炭化物を含む。上面は GL-0.75 ～ 0.85 m である。

5 層 緑味を帯びた褐色土で、4 層のブロックを含む。上面は GL-1.0 ～ 1.1 m である。

遺構（第 17・18 図） 2 層上面で溝あるいは土坑と考えられる遺構を確認した。埋土 a は、明黄褐色砂質土である。播鉢と瓦が出土した。掘り込まれた時期は近世か。また、3 層上面で杭痕跡の可能性のある落ち込みを確認した。埋土 b は、灰褐色砂である。時期は近世であろうか。

（三阪一徳）

註

1. 中村（2000・2002）の I－3・4 様式をさす。
2. 中村豊氏のご教示による。
3. 田尻義了氏のご教示による。硬質陶器とは、磁器と陶器の中間の硬度をもち、素地はよく焼き締まり白いが、磁器のような透明性はないものをさす（田尻 2013）。

参考文献

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室編 2005『常三島遺跡 1—工学部電気電子棟地点—』徳島大学埋蔵文化財調査報告書第 2 巻

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室編 2006『常三島遺跡 2—工学部実習棟地点・地域共同研究センター棟地点—』徳島大学埋蔵文化財調査報告書第 3 巻

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室編 2013『徳島市庄・蔵本遺跡平成 24 年度発掘調査概要報告書—国立大学法人徳島大学（蔵本）立体駐車場新営に伴う埋文調査その他工事—』

田尻義了 2013「九州大学出土の硬質陶器について」『平成 25 年度九州史学会考古学部会発表資料集』

田尻義了 2014「九州帝國大學醫學部附属醫院出土の病院食器に関する考古学的考察」『第 115 回日本医史学会』

徳島県教育委員会・国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室編 2010『庄（庄・蔵本）遺跡—徳島大学蔵本団地体育館器具庫・医学部臨床講義棟建設に伴う発掘調査報告書、体育館建設に伴う発掘調査報告書補遺—』

徳島県教育委員会・国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室編 2011『庄（庄・蔵本）遺跡—徳島大

学蔵本団地課外活動共用施設・医療技術短期大学建設に伴う発掘調査報告書、弓道場建設に伴う立会調査報告書一』

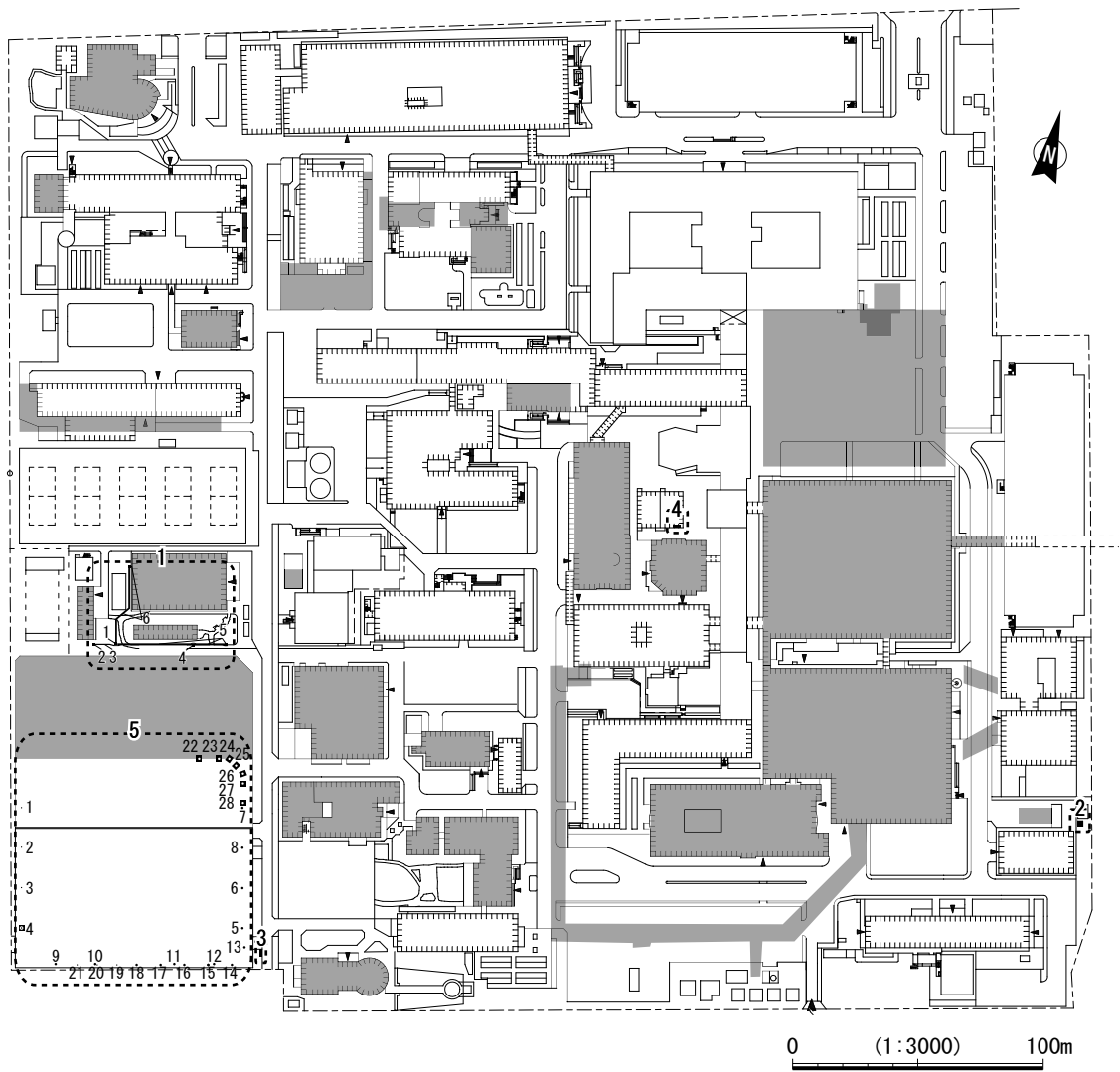
徳島大学埋蔵文化財調査室編 1998『庄・蔵本遺跡 1—徳島大学蔵本キャンパスにおける発掘調査—』
徳島大学埋蔵文化財調査報告書第1巻

中村 豊 2000「阿波地域における弥生時代前期の土器編年」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊
行会編、471-497 頁

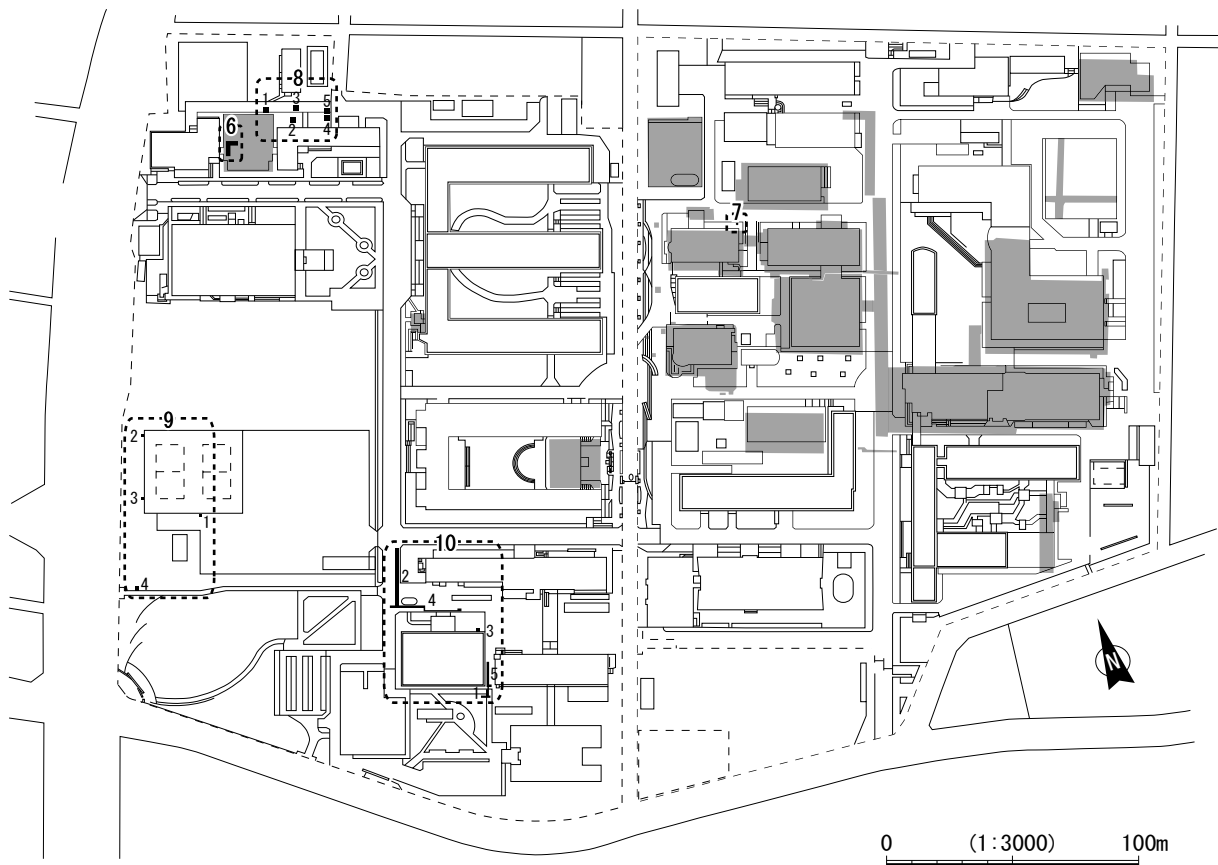
中村 豊 2002「前期末・中期初頭の諸問題 徳島地域」『弥生時代前期末・中期初頭の動態 研究発表要旨集』第16回古代学協会四国支部研究大会、75-98 頁

三阪一徳 2014「土器からみた弥生時代開始過程」『列島初期稲作の担い手は誰か』公益財団法人古代学協会編、すいれん舎、125-174 頁

美濃窯業株式会社編 2002『美濃窯業社史—1918～2002 83年の歩み—』



第 19 図 2013 年度蔵本地区立会調査地点



第20図 2013年度南常三島地区立会調査地点

第2表 2013年度立会調査地点（その1）

地区	番号	工事名称	工事詳細	調査期間	掘削深度 (GL-m)	掘削面積 (㎡)	造成土厚 (m)	内容	遺物
蔵本	1	立体駐車場新営その他電気設備工事	1 ハンドホール	13/6/4・5	1.5	1.0	0.40	弥生・中世・近世・近代層	弥生土器
			2 ハンドホール	13/6/4・5	1.5	1.0	0.40	弥生・中世・近世・近代層	弥生土器、石器
			3 管路	13/6/4・5	1.0	7.0	0.40	弥生・中世・近世・近代層	弥生土器
			4 ハンドホール	13/6/7～10	1.5	1.0	0.40	弥生・中世・近世・近代層	弥生土器
			5 ハンドホール、管路	13/6/7～10	1.4	43.0	0.40	弥生・中世・近世・近代層	-
			6 ハンドホール、管路	13/6/18～28	1.3	30.0	0.40	弥生・中世・近世・近代層	-
	2	地盤改良工事のための試掘		13/6/5	1.5	2.3	-	既設内	-
	3	支線埋設工事		13/9/8	2.2	1.5	0.90	黄褐色砂質土まで、近代層	-
	4	総合研究棟（医学系）新営工事		13/9/10	3.0	3.0	-	青灰色粘土まで	-

第2表 2013年度立会調査地点（その2）

地区	番号	工事名称	工事詳細	調査期間	掘削深度 (GL-m)	掘削面積 (㎡)	造成土厚 (m)	内容	遺物
蔵本	5	立体駐車場新営その他工事	1・2 電柱	13/11/26	2.6	0.3	-	弥生・中世・近代層	-
			3 電柱	13/11/26	2.6	0.3	-	弥生・中世・近代層	須恵器、土師器？、弥生土器？
			4 電柱	13/11/26	2.6	1.5	-	弥生・中世・近代層	-
			5 電柱	13/11/26	2.6	1.5	-	弥生・中世・近代層	陶磁器、ガラス瓶、「徳島大学」ロゴマーク入硬質陶器
				13/11/26	0.7	4.8	1.00	弥生・中世・近代層	
			6・7 電柱	13/11/26	2.6	1.5	1.00	弥生・中世・近代層	陶磁器
			8 電柱	13/12/9	2.8	1.1	1.00	弥生・中世・近代層	陶磁器、「徳島大学」ロゴマーク入硬質陶器、煉瓦
			9～12 電柱	13/12/9	2.8	1.1	0.90	弥生・中世・近代層	-
			13 防球ネット	13/12/2	12.0	2.5	-	弥生・中世・近代層	陶磁器、「厚仁会」ロゴマーク入硬質陶器
			14～17 防球ネット	13/11/30	12.0	2.5	-	弥生・中世・近代層	-
			18 防球ネット	13/11/29	12.0	2.5	-	弥生・中世・近代層	煉瓦
			19・20 防球ネット	13/11/27	4.5	0.3	-	弥生・中世・近代層	-
			21 防球ネット	13/11/27	4.5	0.3	-	弥生・中世・近代層	陶磁器
			22・25・27 防球ネット	13/12/4	3.0	0.8	-	弥生・中世・近代層	弥生土器、土師器、陶磁器、ガラス瓶など
				13/12/4	0.5	6.2	-	弥生・中世・近代層	
			23・24・26・28 防球ネット	13/12/4	3.0	0.8	-	弥生・中世・近代層	陶磁器、瓦、ガラス瓶など
				13/12/4	0.5	6.2	-	弥生・中世・近代層	
南常三島	6	地域連携プラザ新営その他工事		13/5/23	1.6	16.0	-	既設内	-
	7	フロンティア研究センター新営電気設備工事	コンクリート柱	13/11/11	2.0	0.8	-	既設内	陶磁器
	8	地域連携プラザ新営その他工事	1 雨水樹	14/1/7	1.0～1.1	3.8	0.45	GL-0.45mで近世整地層？	陶磁器
			2 雨水樹	14/1/7	0.7～0.8	3.1	0.45	GL-0.45mで近世整地層？	-
			3 雨水樹	14/1/7・10	0.8	3.2	0.45	GL-0.45mで近世整地層？	-
			4 雨水樹	14/1/10	0.9	3.2	-	既設内	-
			5 雨水樹	14/1/10	0.9	4.0	0.45	GL-0.45mで近世整地層？	陶磁器
	9	課外活動施設新営工事	1 外灯	14/1/30	1.9	1.0	-	造成土	陶磁器、瓦
			2 外灯	14/1/30	1.6	1.0	0.50	近世の溝？杭？	陶磁器、瓦
			3 外灯	14/1/30	1.5	1.0	0.60	近世層	-
			4 外灯	14/1/31	1.6	2.2	0.70	近世の石組？	-
	10	学生支援センター改修機械設備工事	1 管路	14/2/22	0.8～1.5	9.7	-	既設内	陶磁器、瓦、基石
			2 管路	14/2/22、3/1・2	0.9～1.2	31.9	0.55	近世の石組？	陶磁器、瓦
			3 避雷針	14/2/22	0.80	1.8	-	既設内	-
			4 管路	14/2/28、3/4	0.80	34.1	0.20	近世の整地層？	陶磁器、瓦
			5 管路	14/2/17	0.5	10.0	-	既設内	陶磁器、瓦、鉄釘